

不正許さず、住民要求が届く市政を 社会保障改悪・増税ストップ



5月8・9・10日、東日本大震災で被災した石巻市（福島県）、塩釜市（宮城県）を共産党議員団が視察。

今議会には、28件の「議案」と4件の「報告」、継続の請願や議員提案の意見書の審議が行われました。

その中で、議会改革の中で主張してきた、議員の口利き・寄付・金品授受の禁止や、疑惑に対する説明責任を求めた「姫路市議会議員政治倫理条例」が全会一致で成立しました。

一方、元消防局長による約292万円の公金詐取では、市長の任命責任が問われ「市長の給与を1カ月間10分の1減額する」ことが提案されました。日本共産党議員団は、「市長は一般職員の不祥事の時でも給与1か月の10分の2を減額し、その責任を表明しているのに、市長自ら任命した幹部職員の犯罪にたいして10分の1では責任が軽すぎる。職員や市民の理解を得られない」と、反対しました。

また、国会の「社会保障と税の一体『改革』」は、市民生活にも多大な影響を与えることから、年金の引下げや介護保険料の負担増等、社会保障の改悪と低所得者に負担が重い消費税増税ストップの声を国に届けることを市長に求めました。しかし、前回は「国の方針にモノ申すほどの持ち合わせがございません」、今回は「国の動向を見守る」との答弁で、市民のくらしの防波堤となる市長の覚悟は感じられませんでした。

こんなことも頑張っています

● 姫路市議会議員政治倫理条例の制定

● 県立特別支援学校の開設

姫路市町の坪の旧県立高等技術専門学校跡地に、3・4階建ての校舎と体育館、プールを建設。姫路市西部の知的障がい児の児童・生徒を約200人受け入れ。着工は来年3月。

● JR野里駅に

エレベータと多機能トイレ設置



この間、住民の方や障がい者団体の方々と一緒に当局に要望。議会でもとりあげてきました。
平成25年着工予定。

● 飾磨中部中学校改築工事に伴いエレベーターを設置

● JR手柄新駅設置に向け検討機関の発足

● エコパークあぼしのメタン・硫化水素の継続調査と公表を約束

請願採択へ

日本共産党市議団は、理にかなった市民要求や請願が採択されるよう全力でがんばっています。しかし、他党派の反対で不採択となることもあります。

〈採 択〉

- 「義務教育国庫負担制度の堅持と30人以下学級の実現を求める請願」
⇒30人以下学級は共産党市議団が長年訴えてきたもので、このたび全会一致で採択となる

〈継続審議〉

- 「中学校3年までこどもの医療費無料化を求める請願」
⇒共産党市議団は採択を求めた

〈不採択〉

- 「年金受給に必要な資格期間を25年から10年へ短縮することを国に求める意見書」
- 「公的年金の改悪（3年間で2.5%引下げ）に反対することを国に求める意見書」
- 「こども子育て新システム基本制度要項に反対し、現行保育制度の拡充を求める意見書」
- 「保育所の最低基準を維持し向上できる条例を」
- 「県立こども病院のポートアイランドへの移転計画の見直し」
⇒上記5件について共産党市議団は採択を求める討論を行い、他党派の賛同を求めた

〈審議未了〉

- 「夢前産廃問題について住民説明会を求める請願」
⇒共産党市議団は採択を求めた

日本共産党市議団の新体制

- 大脇和代 議員
- 総務委員
- 子育て支援対策特別委員
- 谷川まゆみ 議員
- 厚生委員会副委員長
- 姫路駅周辺整備特別委員
- 森ゆき子 議員
- 文教委員
- 観光対策特別委員
- 入江次郎 議員
- 経済委員
- 地域防災対策特別委員会副委員長

日本共産党 2012年 第2回定例議会 姫路市会報告

日本共産党姫路市会議員団控室
姫路市安田4-1
TEL 221-2046 FAX 284-5890
(ホームページ) <http://www.jcp-himeji.com>
(Eメール) info@jcp-himeji.com

子ども医療費無料化

姫路市 前進へ第一歩

日本共産党議員団は、これまで予算要望や本会議等で、安心して子育てできる環境づくりの条件の優先課題として、子どもの医療費無料化を求めてきました。折しも少子高齢化が全国的課題となり、少子化克服の有効策として全国の自治体でとりあげられてきたのが、やはり子どもの医療費無料化でした。東京で、そして県内西播磨の小さなまち福岡町で、中学校3年までの医療費無料化が始まり、相生市、たつの市など、次々広がりました。周辺の変化に敏感な女性たち、経済的困難をかかえる女性たちから、姫路市でも医療費の無料化を求める声が上がります。市議会への請願をめざす署名活動へと発展しました。

(通院・入院) 中学卒業まで無料	福崎町 相生市 赤穂市 たつの市	市川町 神河町 佐用町
(通院・入院) 小学卒業まで無料 (入院) 中学卒業まで無料	宍粟市	
(通院・入院) 3歳未満は無料 (3歳以上は県・市の助成 あるが自己負担有り)	姫路市	

日本共産党議員団は住民運動を受け止め、昨年12月議会、本年3月、6月議会と継続して子どもの医療費無料化をとりあげ、市の答弁を前進させてきました。

【平成23年度第4回定例会】

(質問) 少子化の原因の一つは、子育てにお金がかかりすぎることで、お金の心配なく病院に行けたらと、医療費の負担ゼロを望む声が、2か月という短期間に4200筆余の署名となっている。西播磨一帯では、平成22年の福岡町に続いて、相生市、赤穂市、たつの市で中学3年までの通院入院の無料化が実施された。なぜ姫路市は0・1・2歳の無料化にとどまっているのか。実施への課題は何なのか。

(答) 義務教育終了まで子どもの医療費を完全無料化した場合、約14億9千万円の追加予算が必要で、財源の確保が課題。

(質問) 財源の厳しさはこの自治体も同じ。子どもの医療費助成額の予算の割合は、他都市と比べてどうなのか。姫路市は六〇億円の赤字決算となっている。福岡町のような小さな町でも0・89%を確保している。やる気があればできるのでは。

(答) 姫路市の一般会計予算に占める比率は0・47%。医療制度は、地域間の格差なく国レベルで解決すべき。持続可能な制度になるよう検討していく。

【平成24年度第1回定例会】

(質問) 姫路市は子育て支援を掲げながら、子どもの医療費を無料にしないのはなぜか。市民から疑問の声が多く寄せられている。西播磨では市川町、佐用町も中学3年まで無料化を打ち出した。財政難はどこも同じ。新年度予算で一步でも前進を。

(答) 経済的支援を必要とする方に対し、自己負担の軽減をすることが目的。所得制限も必要。引き続き検討する。

【平成24年度第2回定例会】

(質問) 今年は7月から佐用・市川・神河の各町で中学3年まで通院入

院とも無料になる。宍粟は、中学3年まで入院が無料、通院は小学卒業まで無料であり、上郡・太子も中学3年まで入院が無料となり、今後、通院無料化を検討しているとのこと。西播磨では姫路市だけが取り残されている。全国の各自治体の無料化が進めば、国を動かし、放射線被害を心配している子どもたちも安心して医者にかかれる。神戸新聞が実施した姫路市民アンケートで、子育て世代から、子どもの医療費無料化を求める意見が多いことがわかる。一歩ずつ前進させ、市民の期待にこたえてほしい。

(答) 子ども医療費無料化については、所得制限を考慮しつつ、厚生委員会委員長報告(市長を含め前向きに協議する)をふまえ検討する。

夢前町 産廃いらん 子や孫に美しい自然を

夢前町前之庄地域に国内最大級規模、甲子園球場の約10倍(12万㎡)に匹敵する安定型産廃処分場建設計画が進められています。ところが、これだけ大きな産廃処分場建設計画にも関わらず、業者による住民説明会は、わずか3自治会でしか行われておらず説明会に参加した住民も数十名です。

24年2月、計画を知った下流域では、「こんな巨大処分場ができるのに何の説明もない」「20年〜30年にわたり埋め立てがされる。子や孫の代まで関わる問題」「美しい夢前川を守りたい」と下流域16自治会を中心に「夢前町の自然を愛する会」を結成し大規模な建設反対運動を展開しています。現地では数百本の「建設反対」のぼり旗が地域を埋め尽くし、署名活動も市内全域にまで広がっています。



「産廃いらん」のむしろ旗を持って行進する地元住民

6月10日、夢前町河川公園で住民600人による建設反対のデモ行進や集会が開催されました。

安定型処分場については、全国各地で人的被害や環境汚染を引き起こしており、処分場設置に関する法律そのものの欠陥が司法の判

決や日本弁護士連合会などから指摘されています。

日本共産党議員団はこの間、産廃処分場建設計画が進められていることをピラやハンドマイクなどで地域の皆さんにお知らせをし、安定型処分場の疑問に対し繰り返し学習会を開催するなど、住民の皆さんと共に運動を進めてきました。また議会では、安定型処分場の安全性が確立されるまで処分場設置計画を認めないよう、市当局に迫りました。

しかし、市は欠陥が指摘されている法の枠内だけでの答弁に留まり、住民が抱く不安の声に全くこたえようとしません。

日本共産党は処分場建設反対の一致点を大事にし、広範囲の住民の皆さんと力を合わせて頑張ります。